

2024/4/9 (火)

朝の礼拝

聖書 ヨハネによる福音書 15章 1-5節 (新約聖書194頁)

私はまことのぶどうの木、私の父は農夫である。私につながっている枝で実を結ばないものはみな、父が取り除き、実を結ぶものはみな、もっと豊かに実を結ぶように手入れをなさる。私が語った言葉によって、あなたがたはすでに清くなっている。私につながっていなさい。私もあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、私につながっていなければ、実を結ぶことができない。私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである。

### 永遠のつながり

ぶどうは日本のみかんやリンゴのように、地中海世界では古代から広く栽培されてきました。ただ日本のように食用ではなく、ぶどう酒として飲まれています。ぶどうを収穫して搾るとぶどうの皮の色素が溶け、果汁は赤くなります。そして果汁に含まれる糖分が発酵してぶどう酒になります。

今、読んでいただいたように、イエスはご自身をぶどうの木、あなた方はその枝、わたしにつながっていれば実を結ぶと語りました。もちろんぶどうの木の根、幹、枝を行き交う水分や養分は透明です。しかし収穫され搾られ、発酵して生まれた赤い葡萄酒は、イエスとの永遠のつながりを表すシンボルとなりました。

それは最後の晩餐の時のことでした。イエスはぶどう酒をこれはわたしの血と言って弟子たちに分けました。そして翌日、イエスは十字架にかけられ息を引き取ります。その後、残された弟子たちは最後の晩餐を思い起こし、同じようにぶどう酒を分かち合う度に、救い主は永遠に共にいると信じたのでした。

人と人のつながりに「血の通った」という表現があります。英語で *flesh-and-blood, warm, compassionate, blood-circulating* などと言います。毎朝、わたしたちが繰り返し聖書の言葉に耳を傾けるのは、ただ聖書の言葉を知るだけでなく、いまも主が共におられると信頼し、互いに愛し合うためなのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは弟子たちとの最後の晩餐でぶどう酒を分け与え、いつまでも共にいると約束されました。どうか新しい生活を始めた英和生と共にいて、その交わりを祝福し、共に励まし歩ませてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン